



研究者名※	西村一之	学位※	博士(文学)
所属※	人間社会 学部 現代社会 学科	職名※	教授
連絡先	nishimurak@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0063507		
研究分野※	文化人類学		
研究キーワード※	台湾、東アジア、歴史、植民地、移動・越境、マイノリティー、民族集団関係		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<p>(個人研究)</p> <p>科研費: 「台湾漁民社会における民俗知識と「日本」—植民統治の影響とその翻訳をめぐる—」(科学研究費補助金「若手研究」(B)・研究代表者、2002～2004 年度) 「台湾先住民アミと漢人の生活実践にみる「民族」と「伝統」—身近な他者との交渉の諸相」(科学研究費補助金基盤研究(C)・研究代表者、2008～2010 年度) 「東シナ海漁民の移動と海域認識の人類学—植民地・境界変動・民族集団関係」(科学研究費補助金基盤研究(C)・研究代表者、2013～2015 年度) 「アジア海域における移動の人類学:「水際」空間における漁民の日常構築を通して」(科学研究費補助金基盤研究(C)・研究代表者、2016～2018 年度)</p> <p>その他: 「台湾漁業領域における民俗知識と「日本」—東部港町を舞台とした植民統治の影響とその翻訳をめぐる—」(財交流協会日台交流センター歴史研究者交流事業・研究代表者、2001 年度)</p> <p>(共同研究)</p> <p>科研費: 「台湾における植民地主義に関する歴史人類学的研究—「日本」認識をめぐる—」(科学研究費補助金基盤研究(A)・研究分担者、2005～2008 年度) 「日本「周辺」地域にみる国境変動とアイデンティティ:韓国・台湾との越境を巡って」(科学研究費補助金基盤研究(B)・研究分担者、2009～2011 年度) 「日本を含む外来権力の重層下で形成される歴史認識—台湾と旧南洋群島の人類学的比較」(科学研究費補助金基盤研究(A)・研究分担者、2010～2013 年度) 「琉球列島と台湾における台風災害と復興過程に表れる人のつながりに関する比較研究」(科学研究費補助金基盤研究(C)・研究分担者、2013～2015 年度) 「少子化に揺れる東アジアの父系理念—祖先祭祀実践と世界観の再創造に関する比較研究」(科学研究費補助金基盤研究(A)・研究分担者、2018～継続中)</p> <p>その他: 「佐倉孫三の台湾原住民に関する著述とその業績に関する研究」(公益財団法人交流協会共同研究助成事業・研究代表者、2013 年度)</p>		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	文化人類学	(SDGs)
------	-------	--------

研究テーマ※	東アジア社会における文化人類学的研究:移動・歴史・家族
<p>概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)</p>	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>①漁民の移動を巡る文化人類学的研究。日本、沖縄八重山、中国福建、東南アジア(主にインドネシア、フィリピン)からの漁民の移動、そして彼らと台湾漁民(漢民族および先住民族)との関係を研究対象としている。日本植民統治期からグローバル化した現在に至るまでを視野に、台湾東海岸に位置する一港町を行き交う漁民の移動に関する研究である。台湾に加え、中国福建沿海部、沖縄八重山(与那国島)での現地調査を実施している。</p> <p>②台湾社会における日本認識に関する歴史人類学的研究。日本植民統治期に対し台湾社会の人々が持つ認識について、現地調査を通じた考察を行っている。特に言語と技術に焦点を当て、台湾の人々が「日本」をどのように捉え扱うのかに注目した研究である。関連して、台湾の研究者、日本の韓国研究及び韓国の研究者との共同研究やオセアニア研究を行う研究者との人類学および歴史学的共同研究を行っている。</p> <p>③人口減少が進む東アジアの中国・韓国・日本・台湾・沖縄における家族・親族をめぐる文化人類学的共同研究に参加している。親族の父系理念を共通項とするこれらの地域において、系譜の維持を困難にしている少子高齢化の実態を明らかにすることを目的としている。また、民俗的世界観に着目し、近年現れている新しい形の供養や追慕の方法との連関を、台湾における現地調査を通して考察している。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>①について、社会の多様性が高まる中、民族集団間の日常的な関わりから多文化主義について具体的に考えることができる。②について、植民地経験が歴史化し利用される様子をミクロなレベルから捉え考えることができる。例えば観光資源化することで発現する歴史認識について考えることができる。③について、東アジア社会の中で起きている新しい供養や追慕の姿を知ること、家族観・親族観の変化を考えることができる。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>インタビューと参与観察に基づいた、現地調査を研究方法としている。現地社会にある固有の論理や認識をとらえ、マクロな世の中の動きとミクロな社会の動きを接続させて捉える。</p>
本研究関連 特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・上水流久彦・村上和弘・西村一之、編著『境域の人類学:八重山・対馬にみる「越境」』、風響社(2017年)。 ・西村一之「重層する外来権力と台湾東海岸における「跨る世代」」『文化人類学』81(2):284—301(2016)。 ・西村一之「植民地期台湾における日本人漁民の移動と技術—「移民村」のカジキ突棒魚を例として」『台湾における〈植民地〉経験:日本認識の生成・変容・断絶』、風響社(2011年)、pp.99-140。
共同研究・外部機関 との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアにおける植民地主義の研究 ・東アジアにおける移動・移住の研究 ・東アジアにおける地域振興をめぐる研究